リハビリテーション『進路相談会』・『お悩み相談会』を終えて

～広報部活動報告～

広報部　福　留　史　剛

広報部では６月21日（日）、かごしま県民交流センターにて昨年同様、「リハビリテーション職種を目指すやる気のある鹿児島の若者を鹿児島で育てよう」を趣旨に『進路相談会』・『お悩み相談会』を開催致しました。開催にあたり、作業療法士会・言語聴覚士会広報部とのミーティング、県内各高校の進路相談室への案内文・ポスター送付、県内養成校への参加依頼、南日本新聞にて告知を行いました。

内容としまして、

・各養成校の特色を聞くことができる『進路相談会』

・現場のPT・OT・STが一般の方からのさまざまな質問にお答えする『お悩み相談会』

を企画しました。養成校は県内全ての養成校に参加いただきました。

参加人数は約20名の方が来場され、親御さんと一緒の学生さんや友達同士で来場されたりと様々でしたが、みなさん熱心に説明を聞かれていました。

今後も、広く県民の皆様へ理学療法（士）を周知して頂けるよう取り組んでいければと思います。

お忙しい中、当日参加頂いた養成校の先生方、また相談会をお手伝い頂いた先生方、ご協力ありがとうございました。

〈参加養成校〉

鹿児島大学医学部保健学科	理学療法学専攻		
鹿児島医療技術専門学校	理学療法学科	作業療法学科	言語聴覚療法学科
鹿児島第一医療リハビリ専門学校	理学療法学科	作業療法学科	言語聴覚学科
神村学園専修学校	理学療法学科	作業療法学科	
鹿児島医療福祉専門学校	理学療法学科		

第29回鹿児島県理学療法士学会のお知らせ

学会長　吉　屋　光　晴

この度、第29回鹿児島県理学療法士学会を平成28年２月21日（日）に出水市音楽ホールにて開催いたします。

前回は鹿児島の南の地奄美で初めての開催でしたが、今回は鹿児島の北の地出水での初の開催となります。これも各ブロック地区で幅広く開催される鹿児島県士会ならではだと感じさせられます。

会員の学術向上と若い会員の方々の積極的な参加を目的に開催されるようになった県学会も回を重ねること29回目を迎えます。30回という大きな節目にしっかりとバトンタッチできるように、そして会員のみな様に満足していただけるようにと出水、阿久根地区の会員を中心に鋭意準備を進めております。今回は口述発表と、ポスター発表、公開講座を予定しています。多くの会員のみな様が参加していただけることを、合わせて多数の演題発表の応募を切にお願い申し上げます。

出水といえば、国の天然記念物鶴の越冬地として全国的にも有名です。学会が開かれる２月は１万羽を超える鶴が飛来しており、その光景は圧巻です。また、出水は肥後と薩摩の境界でもあり関所や武家屋敷群など歴史の町でもあります。お時間がある方は、この機会にぜひご覧ください。

「阿久根うまいね、自然だね」のキャッチフレーズがあるくらい出水、阿久根地区は自然豊かで、おいしい海、山の幸に恵まれた地でもあります。今回、出水に足を運んでいただき、北薩の食や文化、歴史に触れていただければ幸いです。準備委員一同心よりお待ちいたしております。

肥薩おれんじ鉄道

天然記念物　鶴

第29回鹿児島県理学療法士学会のお知らせ及び演題募集要項

学会長　吉屋光晴
学会準備委員長　村山貴彦

謹啓　時下ますますご健勝の事とお慶び申し上げます。
さて、第29回鹿児島県理学療法士学会を平成28年２月21日に、出水市音楽ホールにて開催する運びとなりました。つきましては多数の応募をお願いしたく、以下の要領にてご案内いたします。
演題応募についてご不明な点は以下のお問い合わせ先までお問い合わせください。

演題募集要項

Ⅰ．応募資格

１．公益社団法人鹿児島県理学療法士協会会員に限ります。
＊非会員の場合は演題登録までに入会手続を行ってください。
２．共同演者も原則として本会会員に限ります。

Ⅱ．応募方法

１．E-mailにて下記の応募記載項目を記載し、演題原稿ファイルを添付して送信してください。演題原稿ファイルにつきましては、「Ⅳ」の作成要領に従って作成してください。
E-mailを利用できない場合は、下記のお問い合わせ先までご連絡ください。
２．送られてきたメールアドレスを今後の連絡用メールアドレスとして使用させて頂きます。連絡用に別のメールアドレスを希望される場合は連絡用メールアドレスをメールに記入してください。
３．E-mail受信後1週間以内に受信確認の返信メールをお送りします。１週間経っても返信メールが届かない場合は、お手数ですが以下のお問い合わせ先までお問い合わせください。
４．応募記載項目
メールタイトル：「第29回県学会演題応募」
①発表演者の氏名、会員番号、所属施設
②演題タイトル
③発表形式：口述もしくはポスター発表
④演題分類番号
（以下の演題分類表より選択してください）
01.基礎理学療法　02.神経理学療法
03.運動器理学療法　04.内部障害理学療法
05.生活環境支援理学療法　06.物理療法
07.教育・管理理学療法　08.その他

なお、発表形式と演題分類は学会側の判断で変更する場合がありますのでご了承ください。

Ⅲ．演題応募期間（期間厳守）

平成27年８月24日（月）から
平成27年10月20日（火）まで
＊締切の延長は致しませんので、ご注意ください。
余裕を持って登録いただくことをおすすめします。

Ⅳ．演題原稿ファイル作成要領

１．原稿のファイル形式はMicrosoft　word形式とします。
２．演題タイトル、氏名、所属施設、本文の順番に改行して記載してください。
３．氏名は発表演者を先頭にし、発表演者名の前には〇を付けてください。
４．共同演者は筆頭演者の後ろに記載し、各氏名の間にはスペースを付けてください。
５．所属施設が複数ある場合には、氏名の後ろに番号を振り、番号順に改行して記載してください。
６．本文（演者名・所属を除く）の文字数は2000字以内を厳守してください。
７．本文には【目的】・【方法】・【結果】・【考察】・【まとめ】等の小見出しを付けてください。
８．図表は使用しないでください。
なお、学会誌のフォント・レイアウト等は学会側で調整させて頂くことをご了承ください。

Ⅴ．応募上の注意

1．応募された演題と学会当日の発表内容が大幅に異なることのないようにして下さい。
2．発表演者として複数の演題を応募することは認められません。１人１演題を遵守してください。
3．本文中に研究対象にとって不利益となるような属性（人名・施設名等）を記載しない等、プライバシーポリシーに配慮してください。
4．演題原稿に関する著作権は第29回鹿児島県理学療法士学会および筆頭演者に帰属し、学会誌へ掲載されます。
5．採択後の演題取り消しはできませんのでご注意ください。
6．発表演者が発表できない場合は必ず共同演者が発表を行ってください。

Ⅵ．応募演題に関する倫理上の注意

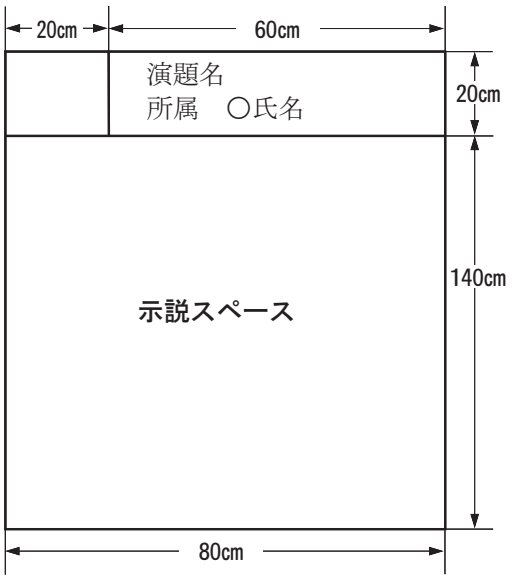
ヘルシンキ宣言に沿った研究であることを確認し、倫理的配慮に関する記述をしてください。原則として「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に従うものとします。倫理委員会の承認を得ている場合には、承認番号を記載してください。研究対象にとって不利益となるような属性（人名、施設名等）を記載しない等、プライバシーポリシーに十分配慮してください。

＊倫理的配慮についての記載に不備がある場合は、演題不採択となります。

Ⅶ．発表形式について

1．発表形式：口述発表またはポスター発表
2．発表時間
　発表時間は７分以内、質疑応答は３分以内とします。(演題数により変更される場合があります。)
3．口述発表スライド作成要領
　1）PCプレゼンテーションを使用します。
　2）ファイル形式はMicrosoft Power point形式とし、スライド枚数は発表時間内であれば特に制限を設けません。
　3）動画及びアニメーションは使用できませんのでご注意ください。
4．ポスター作成要領
　1）ポスター掲示には、ポスターパネルを用意いたします。
　2）演者は指定された時間帯に従ってポスターの貼付及び撤去を各自行ってください。
　3）ポスター掲示面積は縦160cm×横80cmです（次図参照）。パネル左上に演題番号を学会側で用意いたします。その右側に縦20cm×横60cmのサイズで演題タイトル・所属・氏名（発表演者の氏名の前に〇）を表記してください。示説スペースは、縦140cm×横80cmです。

＜ポスター発表用パネル概要＞



Ⅷ．演題審査

演題の採択は学会の査読委員による結果を参考に、学会長が決定します。採否結果は12月初旬頃を予定しています。

Ⅸ．生涯学習のポイントについて

発表演者は新人教育プログラムの単位として認められます。また認定理学療法士および専門理学療法士制度の履修ポイントは「県学会」の演題発表のポイントとなります。

Ⅹ．応募先およびお問い合わせ先

第29回鹿児島県理学療法士学会
準備委員長　村山　貴彦
(出水総合医療センター
診療技術部　リハビリテーション技術科)
E-mail：izumihp-rh@hospital-city.izumi.kagoshima.jp
TEL：0996-67-1611
FAX：0996-67-1661

鹿児島県理学療法士協会専門領域研究部研修会のご案内

理　事　大　渡　昭　彦
部　長　牛ノ濱　政　喜

今年度開催予定の５領域（小児系、呼吸器系、神経系、生活環境系、運動器系）の研修会案内をいたします。会員の皆様のたくさんの参加をお待ちしております。

各領域の先生方にご尽力頂きまして、臨床にいかせる実践的な研修内容となっております。

研修会予約は事前登録制になっており、領域ごとに受付内容や注意事項が異なります。

詳細は県士会ホームページに掲載されます各領域の案内状をご覧下さい。

※注意事項

緑色の「協会会員証」が必要です。
キャンセルのないように、申し込む前にスケジュールを再度ご確認ください。
勤務先・氏名等の会員情報変更がある場合、必ず異動申請手続きを行ってください。
年会費未納の状態では、研修会へ参加することができません。
今年度より、参加費が￥1,000となっております。

小児系研修会のご案内

第１回【日　時】　平成27年９月27日（日）
【場　所】　鹿児島大学医学部保健学科　教育棟4階　402教室
【テーマ】　「臨床に役立つ小児発達評価（GMFM粗大運動能力尺度)」
【講　師】　講師検討中

第２回【日　時】　平成27年12月13日（日）
【場　所】　鹿児島大学医学部保健学科　教育棟4階　402教室
【テーマ】　「臨床に役立つ小児発達評価（PEDI)」
【講　師】　講師検討中

第３回【日　時】　平成28年２月28日（日）
【場　所】　鹿児島大学医学部保健学科　教育棟４階　402教室
【テーマ】　「臨床に役立つ小児発達評価（遠城式乳児発達検査　他)」
【講　師】　講師検討中

お問い合わせ先

NPO法人療育サークルはなはな　代表　前　原　利　彦
kirishimakodomo@ace.ocn.ne.jp

呼吸器系研修会のご案内

第２回【日　時】　平成27年11月１日（日）　9:30～12:30
【場　所】　鹿児島大学医学部保健学科　研究棟２階　運動療法実習室
【テーマ】　「アセスメント」　定員：40名
【講　師】　坂　元　将　也　先生（鹿児島生協病院　理学療法士)
小　牧　泰　裕　先生（鹿児島高岡病院　理学療法士)

第３回【日　時】　平成28年１月31日（日）　9:30～12:30
【場　所】　鹿児島大学医学部保健学科　教育棟6階　インテリジェント室
【テーマ】　「維持期のリハビリテーション」　定員：100名
【講　師】　永　原　真　一　先生（デイサービス至誠舎くしきの　理学療法士）
上　口　崇　先生　（菊野病院　理学療法士）
お問い合わせ先：川辺生協病院　石　峰　幸　恵　respptk@gmail.com　TEL0993-56-6111

神経系研修会のご案内

第２回【日　時】　平成27年11月８日（日）
【テーマ】　「脳卒中の運動療法　～床上動作から立位～」
【講　師】　内　匠　正　武　先生（菊野病院　理学療法士）
【場　所】　鹿児島医療技術専門学校(平川校)
第３回【日　時】　平成28年１月17日（日）
【テーマ】　「脳卒中の運動療法　～立ち上がりから歩行～」
【講　師】　内　匠　正　武　先生（菊野病院　理学療法士）
【場　所】　鹿児島医療技術専門学校(平川校)
お問い合わせ先：医療法人菊野会　菊野病院　村　上　勇　太
kikunorc@po.minc.ne.jp　TEL0993-56-5654

生活環境系研修会のご案内

第２回【日　時】　平成27年９月13日（日）
【場　所】　県民交流センター介護実習室
【テーマ】　「福祉装具を活用した生活支援」
【講　師】　土　井　敦　先生（今村病院分院　理学療法士）
お問い合わせ先：医療法人平和会　ひさまつクリニック　戸　田　博　之
toda4.573@gmail.com　TEL0995-62-0001

運動器系研修会のご案内

第２回【日　時】　平成28年１月24日（日）　9:00～12:00
【場　所】　今村病院分院　１Ｆ　スポーツリハビリセンター
【テーマ】　「マッスルインバランスと運動機能障害の捉え方　～下部体幹編～」
【講　師】　白　尾　泰　宏　先生（今村病院分院　理学療法士）
※県士会ホームページに案内状を掲載いたしますので、受付期間を確認してください。
お問い合わせ先：医療法人中山整形外科　牛ノ濱　政　喜
ushinohama@chuzanseikei.jp　TEL099-266-6366

鹿児島地区だより

平成27年度鹿児島地区研修会日程のお知らせ

鹿児島地区理事　弓　場　裕　之
鹿児島地区部長　五十峯　淳　一
押　　耕　作

平成27度の鹿児島ブロック研修会は新人教育プログラム未終了の方を対象とした症例検討会と新人教育プログラムに対応した研修会（理学療法の臨床）を行う予定です。新人教育プログラム未終了の方が、症例報告を行い、かつ研修会を受講した場合、症例報告３単位、研修会受講１単位の合計4単位が取得できます。参加のみの場合でも１単位が取得できます。以下の日程と内容を確認の上参加してください。生涯学習のポイントにはなりませんが、参加は可能ですので、ふるってご参加ください。

第１回研修会

日　時：平成27年９月５日（土）14:30～
場　所：八反丸リハビリテーション病院　研修室
テーマ：「症例報告会」「C-2運動器疾患の理学療法」
内　容：バイオメカニクス
講　師：木　山　良　二　先生（鹿児島大学医学部保健学科）
症例報告および研修会参加の締め切り：８月25日（月）

第２回研修会

日　時：平成27年12月５日（土）14:30～
場　所：八反丸リハビリテーション病院　研修室
テーマ：「症例報告会」「C-1神経系疾患の理学療法」
講　師：生　駒　成　亨　先生（米盛病院）
症例報告および研修会参加の締め切り：11月24日（月）

症例報告会演題募集について

症例報告会の演題を募集します。
発表形式：パワーポイントでのプレゼン方式（質疑応答を含めて15分程度）
第１回締め切り：８月24日（月）　第２回締め切り：11月24日（火）
申込先：reha@hattanmaru.jp　八反丸リハビリテーション病院　五十峯宛

【事前申し込み方法】研修会への参加には事前申し込みが必要です。

申し込み先：八反丸リハビリテーション病院　五十峯　reha@hattanmaru.jp
E-mailに件名「鹿児島ブロック研修会参加申し込み」と明記し、
①氏名・フリガナ　②勤務先　③生年月日（西暦）④会員番号（８ケタ）⑤新人教育プログラム修了の有無　⑥H27年度会費納入について（納入状況）をご記入のうえお申し込みください。

ご不明な点は下記までお問い合わせ下さい。
八反丸リハビリテーション病院　五十峯（イズミネ）：TEL099-222-3111

姶良地区だより

平成27年度　姶良ブロック研修会のお知らせ

姶良ブロック長　臼　元　勇次郎

貴下ますますのご清栄のこととお喜び申し上げます。
姶良ブロックにおいて研修会を下記のとおり開催することになりました。
会員皆様の多数の参加よろしくお願いいたします。
＊当初計画と若干変更されております。ご了承ください。

日　時　：
第１回目　平成27年８月26日（水）　19：30～21：00（受付　19：00～）
第２回目　平成27年10月28日（水）　19：30～21：00（受付　19：00～）
症例検討会については、12月４日（金）18：30～21：00　を予定しております。

テーマ　：　「神経系疾患の急性期における理学療法評価と管理（仮）」
神経系疾患の理学療法（C-1）

講　師　：　霧島市立医師会医療センター　宇　都　良　大　先生

会　場　：　鹿児島第一医療リハビリ専門学校　１Ｆ　基礎医学室・治療室

※　新人教育プログラム対象者は、理学療法の臨床「神経系疾患の理学療法C1」の単位　1ポイント（１・２回目とも受講可能だが、１ポイントのみの取得。加算ポイントはありません）

※　新人教育プログラムを修了された先生方は、生涯学習の10ポイント
（２回の受講にてポイント取得）
他ブロックの先生方の参加も可能。

【事前申し込み方法】
申し込み先：鹿児島第一医療リハビリ専門学校　臼　元　勇次郎
E-mail；usumoto-aira@outlook.jp
E-mailに件名「神経系疾患　姶良ブロック研修参加申し込み」と明記し、
①氏名・フリガナ　②勤務先　③生年月日（西暦）　④会員番号（８ケタ）　⑤新人教育プログラム修了の有無　⑥H27年度会費納入について（納入状況）　をご記入のうえお申し込みください。

いずれの研修会についても申込み期限を１週間前とします。

私と私の職場

医療法人財団浩誠会　霧島杉安病院　山　平　　馨

県士協会会員の皆様こんにちは。
霧島杉安病院を紹介させて頂きます。

私の勤める霧島杉安病院は、霧島市の中でも高千穂峰や新燃岳など霧島山系を間近に仰ぐ霧島神宮からほど近い場所に位置しています。平成25年３月より病院の建て替えを実施しておりましたが、去る平成27年３月30日より新たな建物での業務を開始することができ心機一転職務に励んでおります。

当院では内科、整形外科などリハビリテーション科を含め８つの診療科目を設置しています。病床数は全部で163床。内訳は一般病棟35床、医療療養20床、回復期リハビリテーション病棟54床、介護療養型医療施設54床です。

関連施設と致しましては、介護老人保健施設きりしま、通所リハビリテーション霧窓庵、居宅介護支援事業所すぎやす、訪問看護ステーションあんしん、ヘルパーステーションすぎやす、グループホーム「ゆめ」、介護付き有料老人ホーム「みち草」があります。

リハビリテーション科スタッフは、理学療法士25名、作業療法士14名、言語聴覚士４名、鍼灸師２名、総勢45名で運営しています。その他マッサージ師や介護スタッフとも協力しリハビリテーション体系の拡充を図っています。和気藹々とした雰囲気で、訓練室では常に笑顔が絶えません。

「病を治し、人を癒す」という病院理念に基づき、患者様に寄り添い一人ひとりに必要なリハビリテーションプログラムの立案や環境面へのアプローチを行っています。

回復期リハビリテーション病棟を有しているため､365日体制でリハビリテーションを提供しています。患者様やご家族のニーズを把握した上で、急性期から維持期まで幅広くサポートし、地域に根ざした拠点病院となるべく他の職種や医療機関、施設などとも連携し、あらゆる面から患者様を支援できるような体制づくりを行っています。

また、様々な疾患を抱えた患者様に対しより充実したリハビリテーションを提供できるよう当院でも院内勉強会や外部講師を招いた研修会などを開催し、積極的な知識の習得と技術の研鑽に努めています。

私自身まだまだ未熟で至らない点が多く猛省する日々ですが、先輩方のアドバイスやサポートを受けながらスタッフ一丸となって患者様のために邁進できる…そんな職場です。

次は「霧島整形外科」様です。
よろしくお願いいたします。

先輩認定理学療法士よりアドバイス

認定理学療法士（介護予防/神経筋障害）内科有馬病院　有　馬　岳　洋

◆取得しようと思ったきっかけ・分野について

通所リハビリの開設に携わり要支援者に対する介護予防事業やはつらつ元気づくり高齢者の方々との関わりが増えた為、平成20年６月に東京まで介護予防認定の講習会を受けに行きました。最終日には会場で認定証を頂きましたが、認定制度も確立しておらずその後、暫定となり、平成23年３月にベルサール渋谷にて第一回認定試験を受けました。また、職場には神経内科もあり、神経筋疾患の方々が多く、少しでもお力になれたらと感じた事や協会指定研修会の有効期間が５年であった事もあり、26年３月に神経筋障害の認定を頂きました。

◆研修会受講・症例報告・試験への対策について（大変だった所、アドバイス）

認定制度が始まった頃は、東京、大阪会場でしか研修や試験が受講できず、業務の調整や費用の捻出に苦労しました。東京会場で協会の先生方に「遠方からの受講には限界があり、受講や受験しやすい会場設定のご検討を」とお願いした事を思い出します。最近では受講会場や試験会場も多くなり、挑戦しやすい環境が整ったような気もします。取得に向けて計画を立て行動する方法もありますが、私の場合は研修会と家庭行事のバランスを考え研修に参加しています。症例報告に関しては担当症例の経過報告や評価等の作成に合わせ認定の症例報告も作成するよう努めています。そうする事で、少しずつ取得要件が揃うというわけです。試験に関しては協会から最新の研修資料も頂ける場合がある為、テキストに精一杯目を通す事で良いかと思います。出題形式は選択問題でしたが、問題数が少ない分、間違えられないなと感じました。

◆認定理学療法士を取得して

鹿児島市の保健師の方々100名程の前で､理学療法士の立場から介護予防の重要性についてお話しをする機会を頂き、すばらしい経験となりました。また、介護予防や神経筋障害の業務に携わる時は少しだけ自分の姿勢が良くなっているようですし、なにより、取得に向けて行動した事が一番の収穫であると思っております。認定取得の過程で知識、技術の未熟さを痛感する事も多く、学生の頃に学んだ事実と異なる事や、新しい事実を学ぶ事もあり、取得後すべき事も明確になりました。

◆今後の目標など

認定制度は理学療法士協会の中だけで活動するものではなく、国の政策や報酬改定の動向に合わせて連動し、成長していくものと考えております。その為に、今後も、自分のペースで研修会に参加し、認定の更新を行う事。また、認定理学療法士として必要とされた時に活動できるよう準備を怠らず、2025年、地域包括ケアシステムの構築の実現も念頭に置き、知識、技術の向上に努めたいと考えております。これから認定理学療法士を目指す先生方のご参考になれば幸いです。

鹿児島県理学療法士協会会員において、認定PT現在63名となりました。入会４年目で最短で取得された方や、県で初めての領域を取得された方など、今後、ますますのご活躍を期待しております。

～H27. 6 現在取得状況～

認定PT　脳卒中７名，神経筋障害２名,発達障害１名，運動器28名，スポーツ理学療法１名，循環１名，呼吸７名代謝４名，地域理学療法３名，介護予防５名，補装具２名，臨床教育１名，学校教育１名

専門PT　基礎３名，神経12名，運動器10名，内部障害６名，生活環境支援３名，物理療法２名，教育管理４名

理想のセラピストになるために

「理想のセラピスト」と言われどのようなセラピストをイメージしますか？
新年度は組織や人員体制が新たなものになる時期です。我々県士会も５月に総会・役員改選があり役員の入れ替わりがありました。

４月に免許を取得された1年生はスタートラインに立たされ戸惑うことの連続ではないでしょうか？

理学療法士は、患者への物理的手段（治療）が許されているため、患者の運動機能の改善と生活の質（QOL）をよくすることが求められる職業です。よくするとはとても曖昧な言葉であり患者の疾患重症度、社会的背景、またセラピストとの関係性などによっても変化しきてしまうように思えます。また、説明と同意に基づいて医療の提供することの重要性は、昨今の報道や事故報告からも読み取れるように倫理的な背景からもますます重要となってくるように感じます。患者さんや他職種から「理学療法士さんっていろんなことを言っていろんな考えがあるみたいだけど､標準的なのって決まっていないの？」と聞かれたことがあります。はっとさせられた言葉で、今もしっかりと覚えています。多様化、エビデンスの重要性などから多面的にみれる反面、ガイドラインや標準化に基づいて理学療法の提供がなされているでしょうか？

本題に戻りますが、私にとってある先輩理学療法士や実習でお世話になったスーパーバイザーの先生の像が理想のセラピスト像で､常に患者様の立場や私たち部下・後輩の事を考えてくださっていました。

経験を積んでも追いつけることはできず、時代によってそのイメージは若干の変化をしますが、いまだに理想のセラピスト像です。

さて、理学療法士の取り巻く環境は時代によって変化するのは否めませんが、それだからこそ、今できること、今しかできないことをみつけ、挑戦する気持ちが大事ではないでしょうか？

他県のニュースに、なるほど～と感じた記事がありました。
以下に紹介します。

何かに挑戦すしようとするとき
Ａさんは「必ず成功する、いい方向に進む」
Ｂさんは「絶対成功できない、悪い方向にいく」と言っているそうです。
どちらが正解でしょうか？答えは、どちらも正解です。
なぜなら、Ａさんは、成功・いい方向に向かうための理由を考え行動し、成功するための実績を積むからです。一方で、Ｂさんは成功できない悪い方向に向かうための行動や理由をかき集め、失敗するための行動をするからです。
脳科学的にも前者は「できる理由」を後者は「できない理由」をものすごい勢いで探索しているそうです。
同じエネルギーを消費するのであれば、どちらを選びますか？

日々の臨床での気づきや、マネジメント、連携などの取組みにおいて、できる理由を集めたいですね。
終わりに、半田会長の研修会でよく使用される言葉をお伝えしたいと思います。

最も強いものが生き残るのではなく、最も賢いものが生き延びるわけでもない。
唯一生き残るのは、変化できる柔軟性と、変化する強い意志をもったものである。

Charles　Darwin　and K.Handa